

## 平成27年度 学校経営計画

### I. 建学の精神とビジョン

#### 建学の精神

『学芸を修めて人類のために』

「何のために学ぶのか。もとよりそれは、自己を学問的、人間的に鍛えて、近くは高等教育機関への進学のために準備し、遠くは社会において、家庭において、専門職業人として、人間として己のために、社会のため、人類のために、それぞれの勤めに励むことである。」

#### 校訓

『恥を知れ』

「これは決して他人に対して言うことではなくて、あくまでも自分に向かって言うことです。自分を高め、自分が自分の『良心』に対して『恥ずるような行いをするな』ということです。人に見られたり、聞かれたりして恥ずかしいようなことをしたかどうかと、自分を戒めることなのです。」

#### 教育目標

- 人間としての自立を目指し、よりよい社会の創造に貢献のできる女性の育成
- 豊かな教養と思いやりの心を身につけた、気品ある女性の育成

#### Our Mission

全ての生徒に光を注ぎ、「学芸を修めて人類のために」を具現するため、確かな学力・生きる力の2本柱を軸として6年間で習得する教育を確立する。

「一人ひとりの幸福の自立」と「社会貢献できる人材となるために」学校は存在するという共通理念で生徒に寄り添う。

高い志と実力で21世紀を切り拓き、世界の最前線でも活躍できる、自立した女性の育成を目指します。

「育てたい生徒像」

私たちは、豊かな教養と思いやりの心を身につけた、聡明にして気品のある女性を育てます。

「学芸を修めるための具体的な目標」

第一に、進学して大学教育を受けるのに必要な基礎的な学力を生徒に身につけさせることです。基礎的な学力は、二つの観点から考察できます。

一つは、大学の学部学科を超えて、およそ大学教育を受けるために必要な教科学力です。もう一つは、「みえない学力」といわれる教科学力を支える学びの基礎力です。学びの基礎力は、基本的な生活習慣、自然体験、社会体験及び文化体験を土台とし、学ぶ意欲、学ぶ態度、学び方等を習得することです。

第二に、自己の個性を理解し、自らの生き方を探求し、主体的に進路を選択決定する過程で、大学進学の意味と意味を探究することです。

第三に、大学の学部学科を選択し、その分野を学ぶために必要な教養・教科学力を十分に身につけることです。

中高一貫教育校とは、中学・高校の学校間接続を行い、①高校入学者選抜の影響を受けずに、ゆとりある安定した学校生活の中で、②一貫した6年間の計画的・継続的な教育を通して、教科内容の重複が排除され、学習時間の活用ができる、③一人一人の生徒の優れた個性や能力を伸ばし、長期的な展望にたつて進路指導や生き方指導ができ、④6学年にわたる異年齢集団の交流が促進され、思春期の内面的な成熟を支援して豊かな人間性を育成する学校です。

大学付属とは、中学校・高等学校と大学の接続を重視するということです。本校の卒業生は大学に進学してからも、益々学習と研究に励むように、確かな学力と学問への情熱を育てます。そのために、優先的に進学できる大妻大学との高大連携を密にし、大学教育の一部の先取りを行う。

女子校であることの意味を大切にすべきだと考えます。集団の中で協調することで伸びる女子の特性を生かした教育を行う。思春期に日常の学校生活において異性の視線から解放され、自分の興味関心に素直になれる。女子だからという力の限界を規制せず、高い目標に向かう姿勢を持つ。女子には命を育てるといふ、大切な役割りを担える資質を伸ばす。

## Our Vision

「魅力と活力にあふれ、信頼される学校」

私たちは、教育活動水準において、常に各分野での日本のトップレベルを目指す向上心を持って教育に携わります。

### 1. 《魅力ある学校》

すべての生徒が活躍の場があり、楽しく学び、生き生きと活動して、一人ひとりがなくてはならない存在として人格的成長を達成できる学校を目指します。

そのための具体策として、

- ① 中高一貫教育校の特性を生かした教育課程の編成と実施
- ② 基礎・基本の定着を図る学習指導の充実
- ③ 一人一人の個性を伸ばし、得意な面を一層伸ばす学習指導と進路指導の充実
- ④ 心身の健康に関する教育と道徳教育の充実
- ⑤ 特別活動、生徒会活動、部活動、学校行事等特別活動の充実に取り組みます。

### 2. 《活力にあふれる学校》

学校の活力は、なによりも教職員の活力にかかります。校長がリーダーシップを発揮して学校組織を活性化し、教職員の意識改革と資質の向上を図ることが必要です。

そのための具体策として、

- ① 学校運営組織の改善を踏まえた学校組織の活性化
  - ② 教職員の意識改革と資質の向上
- に取り組みます。

### 3. 《信頼される学校》

信頼される学校は、生徒、保護者、教職員、理事会、地域の期待に応えて、各学校関係者から支持される必要があります。

そのための具体策として、

- ① 学校の説明責任の徹底
  - ② 学校評価の実施と公表
  - ③ 生徒を守る危機管理システムの確立
- に取り組みます。

## Our Value

—学校運営の指針—

「責任」私たちは、生徒・保護者の満足を達成してその期待に応え、人材を育成して国家・社会に貢献します。

「参画」私たちは、教職員の創造性を尊重し、学校運営に参画し、一体となって生徒の成長を図り、学校の自己革新に努めます。

「透明性」私たちは、広報と広聴に努めて透明性を堅持し開かれた学校運営を行います。

## II. 平成27年度重点課題

### 1. 「学力向上に向けて」

- ① 27年度から開始するグローバル人材育成の取り組みの充実を下記の通り推進する。
  - ・ 21世紀型のアクティブラーニング授業開発を進め、教育の質を高める

- ・ 「実践的英語力」を目指した教育内容を発展させ、開発を実践すると共にその成果を検証するシステムを充実させる。
  - ・ 多様で質の高い授業展開を目指して、電子黒板・タブレットなどのICTを活用した指導法を更に開発し、活用する研修に力を注ぐ。
  - ・ 初年度のグローバルクラスチーム（仮称）に課された教育内容を計画通りに推進する。
- ② 近い将来の大学入試改革に備えて十分に研究し、先進的で的確な進路指導を進め、受験生に不利益にならないよう対応策を作成する。
- ③ 生徒1人1人の進路意識の向上の為に工夫を活発化させ、校内でその情報を共有しながらきめ細かい指導を行い、進路実現を確実なものへと導く。

## 2. 「生きる力育成に向けて」

- ① グローバルハイスクールの生徒像に求められる資質を全校で理解し、必要なスキルアップを確実に実践する。
- ② 将来社会人として必要な生活の基本である「7つのルール」を徹底する。全教員による丁寧な対面教育を心がけ、全ての生徒に「あいさつ」「校内美化」「遅刻防止」の基本的な生活習慣の基礎をしっかりと身につけさせる。
- ③ 道徳教育、キャリア教育、ピアカウンセリングは教則にのっとり全校でベクトルをあわせた指導法で「豊かな心」を養い、自他共に誇りをもてる学校づくりを目指す。
- ④ 教育活動において「目標に向かって最後まで諦めずに努力する姿勢」を培える場を多様に配置する。

## 3. 「学校教育環境の整備と質向上に向けて」

- ① 常に前進する学校としてハード、ソフト両面で教育環境革新を怠らず、校内で共有すると共に、学外に向けた発信を活性化させる。
- ② 生徒の安全を守るための防災・防犯体制の確認、検証を続ける。
- ③ 学校経営計画を策定し、学校評価を実施することを通して、学校の自立的な改善・改革と教育活動の質的向上を図る。
- ④ 「開かれた学校」を目指し、保護者への情報公開を進めて、相互理解と連携を深める。
- ⑤ 組織的に広報と広聴に努め、地域懇談会を開いて地域との連携を深める。また、地域活動にも積極的に参加し、理解を深めることで本校の存在価値への支援を得る。

## SGH推進委員会の達成目標と活動計画

スーパーグローバルハイスクール（SGH）とは、・・・・・・（文部科学省HPより）

高等学校等におけるグローバル・リーダー育成に資する教育を通して、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、もって、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図ることを目的としています。

スーパーグローバルハイスクールの高等学校等は、目指すべきグローバル人物像を設定し、国際化を進める国内外の大学を中心に、企業、国際機関等と連携を図り、グローバルな社会課題、ビジネス課題をテーマに横断的・総合的な学習、探究的な学習を行います。

学習活動において、課題研究のテーマに関する国内外のフィールドワークを実施し、高校生自身の目で見聞を広げ、挑戦することが求められます。

指定されている学校の目指すべき人物像や具体的な課題の設定、学習内容は、地域や学校の特性を生かしたものとなっております。

平成27年度において、大妻中野中学校・高等学校はSGHアソシエイト校として認定されました。新たにSGH推進委員会を設置し、委員会内部に4研究班(課題研究班・探求型学習の研究班・外国語能力向上の研究班・ICT活用の研究班)を設け、次のようにそれぞれの達成目標を策定しました。